

執筆担当	所在地	畜種	キーワード
宮崎牧場 衛生課	宮崎県 小林市	肉用牛	ランピースキン病、防虫ネット 吸血昆虫対策

宮崎牧場における吸血昆虫対策（防虫ネット設置）について

1.はじめに

家畜改良センター宮崎牧場では、令和 6 年 11~12 月に福岡県と熊本県でランピースキン病の発生が確認されたことを受け、ベクターとなるサシバエ等の吸血昆虫対策の強化を行っております。

ランピースキン病に感染した場合、家畜伝染病予防法に基づき処分の対象となるため、特に子牛への感染は育種改良において大きな損失に繋がることから、従来行ってきた吸血昆虫対策に加え、新たな取り組みとして哺育・子牛牛舎に駆虫剤成分を含有する防虫ネットを設置しましたのでご紹介します。

2.防虫ネットについて

今回使用した防虫ネット（写真 1）には、大きく分けて①物理的な侵入防止、②化学的な駆除の 2 点の効果があります。

①については、約 2×2cm マスの防鳥ネットよりも細かい 6×6mm の網目でアブ等の大型吸血昆虫の侵入を防止します。

②については、サシバエ等の小型吸血昆虫をあえてネットに接触、通過させることで駆虫剤成分に曝露し、駆除します（写真 2）。アブ等の大型吸血昆虫についても、接触により駆虫効果を発揮します。



写真 1 防虫ネットの様子



写真 2 防虫ネットに接触したサシバエ

これにより比較的粗い目でも十分な防虫効果を発揮します。通気性を妨げることもないため、吸血昆虫が増加する夏季にも牛舎内の送風ファンと併用すれば牛に過度な暑熱ストレスを与えることなく使用できます。

今夏は宮崎牧場周辺地域も猛暑に見舞われましたが、防鳥ネット設置前と比べ、高体温、活力不振等の熱中症様の症状を示した子牛の数が増えることはありませんでした。

3.防虫ネットの設置方法

サシバエは主に地面から1m程度の高さを飛ぶため、防虫ネットは地面から2m程度の高さまで覆うように設置すると効果的です。また、有効成分の効果は6ヶ月程度とされており、吸血昆虫が活動する時期に合わせて設置することも重要です。

宮崎牧場では、サシバエの活動が本格化する前の4月中旬に防虫ネットを取り付けました。哺育牛舎の周囲三面および子牛牛舎の四面の開口部分へ設置するにあたり、幅2m×50m巻の防虫ネットを5本使用しました。費用は約16万円でした。



写真3 子牛牛舎の出入り口に取り付けた様子

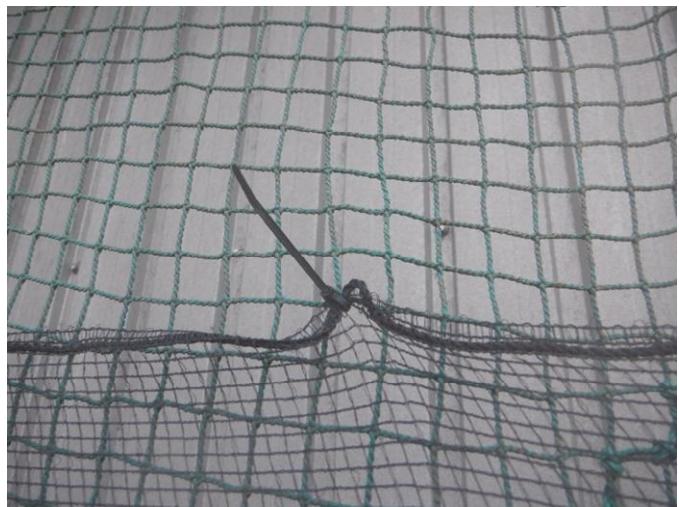


写真4 既設の防鳥ネットに防虫ネットを取り付けた様子

設置場所は、牛による駆虫成分の摂取および防虫ネットの破損を避けるために、直接牛体に接触しないところを選びます。

宮崎牧場の哺育・子牛牛舎では、牛舎の防鳥ネットの下端に重ねるように防虫ネットを設置しました(写真4)。

防虫ネットは、すでに設置してあった防鳥ネットに結束バンドで固定したため(約50cm間隔)、容易に取り付けることができました。



写真5 防鳥ネットとまとめて束ねた様子



写真6 防鳥ネットと一緒に広げた様子

こうすることで作業時には防鳥ネットごと開口できるため(写真5)、通常の飼養管理や牛の移動時も影響はありません。

4.終わりに

宮崎牧場では上記の防虫ネット設置に加え、牛舎周囲の草むらの定期的な刈り払いにより吸血昆虫の住み家を減らし、牛床清掃時にはハエ類の羽化を阻止する IGR 剤を散布して、多面的な吸血昆虫対策に努めています。特に夏季は雑草の伸長も吸血昆虫の成長も早まるため、草刈りは月 2 回、IGR 剤の散布は週 1 回と、より高頻度の対策を実施しています。

吸血昆虫はランピースキン病以外にも、牛伝染性リンパ腫といった伝染性疾病を媒介します。牛伝染性リンパ腫は全国的に感染が確認されており、近年では若齢子牛での発症も報告されています。また、吸血昆虫は吸血時に痛み、痒みといったストレスをもたらすほか、アレルギー症状を引き起こす可能性があり、増体率など子牛の生産性にも悪影響を与えることから、吸血昆虫対策は重要であると考え、取り組んでいます。

近年は気候変動の影響もあり、気温の高い時期が夏季以降も長引く傾向にあるため、引き続き吸血昆虫対策に留意したいと思います。